

令和 3 年 4 月 15 日現在

機関番号：27501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2020

課題番号：15K11723

研究課題名（和文）在宅療養児を支える訪問看護師に対する小児特定看護師の介入教育プログラムの検討

研究課題名（英文）Examination of intervention education program of pediatric specific nurses for home-visit nurse who support home care children.

研究代表者

草野 淳子（Kusano, Junko）

大分県立看護科学大学・看護学部・准教授

研究者番号：70634111

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、医療的ケアが必要な在宅療養児を支える訪問看護師を対象とした小児特定看護師が介入する教育プログラムを開発し、評価することである。平成27年度はA県内の訪問看護師を対象とし、不足とする知識や技術を調査した。その結果をもとに、訪問看護師研修会のプログラムを作成した。平成28年度と平成29年度は研修会を実施し、評価を行った。平成30年度は、研修プログラムの参加者10名にインタビュー調査を行った。そして、A県における小児の訪問看護の実施状況を調査した。令和元年度と令和2年度は、研究成果報告書を作成し、関係者に配布した。また、論文を執筆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

A県内にて、医療的ケアが必要な在宅療養児を支える訪問看護師を対象とした小児特定看護師が介入する教育プログラムを開発し、教育プログラムを実施したことで、A県内の訪問看護師が、在宅療養児の看護を実践する際の知識や技術が向上した。小児特定看護師の講義を導入することにより、訪問看護師は医学的により専門的な技術や知識を学ぶことができた。また、A県内における小児の訪問看護の実施率向上に寄与することができた。作成した教育プログラムは今後も訪問看護師の教育に生かすことができる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify to develop and evaluate the examination of intervention education program of pediatric specific nurses for home-visit nurse who support home care children. In 2015, we researched insufficient knowledge and skills for home-visit nurses in Prefecture A when they practice home-visit nursing for children. We created an education program for home-visit nurse workshops on the results. In 2016 and 2017, we practiced the home-visit nurse workshops and evaluated. In 2018, we interviewed 10 participants in the education program. And we researched the implementation status of the practice of home-visit nurses. In 2019 and 2020, we prepared a research result report and distributed it to the people concerned. We wrote the treatise.

研究分野：小児看護学

キーワード：医療的ケア 在宅療養児 訪問看護 研修会 プログラム 教育 小児

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省は、2003年「医療体制の改革ビジョン」の中で、医療依存度が高い小児が地域で生活できる政策を提言し、地域医療連携、在宅支援機能の強化に取り組んでいる。医療依存度の高い小児がよりよく地域で生活していくには、訪問看護ステーションの役割は欠かせない存在である。

研究者が平成2013年に行ったA県の訪問看護ステーションへの調査の結果では、訪問看護ステーション101施設のうち、小児の訪問看護を行っている施設は19施設(20%)であった。実施場所は、地域差が見られ県西部や北東部では実施が行われていなかった。A県内では小児の訪問看護の実施率が低いと、技術や知識の提供を行い、小児の訪問看護が実施可能な施設を増加させる必要があると考えた。

一方、申請者の大学では全国に先駆け、2008年から大学院修士課程で、高度実践看護師として特定看護師(NP:ナースプラクティショナー)を育成してきた。小児NPは高度実践看護師として医学的な知識や技術を強化して学んでいる。またプライマリ・ケアを目指しているため、在宅の患者の身近な相談者として対応することが養成の目的とされている。そのため、在宅で活躍する訪問看護師の知識や技術の強化に役立つと考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、A県内の小児の訪問看護の拡大を目指し、小児特定看護師(小児診療看護師:小児NP)を講師とした訪問看護師研修会のプログラムを開発し、その効果を判定することである。

3. 研究の方法

- 1)訪問看護や在宅療養児に関する基礎的研究を実施した(2015年~2019年)。
- 2)小児特定看護師(小児診療看護師:小児NP)を講師とした訪問看護師研修会のプログラムを開発し、実施した(2016年~2017年)。
- 3)訪問看護師研修会のプログラム実施後の評価をした(2018年)。
- 4)訪問看護師研修会の実施後の訪問看護師へのインタビューとA県内の小児の訪問看護の実施状況を調査した(2019年)。

4. 研究成果

1)訪問看護に関する基礎的研究

(1)在宅療養児への訪問看護師の介入に対する母親の意識と満足の実態(学会誌、学会発表)

本研究の目的は訪問看護師の介入に対する在宅療養児の母親の意識を明らかにすることである。本研究では5歳以下の在宅療養児が多く、乳幼児に訪問看護のニーズが高かった。呼吸器系疾患の児は5割以上であり先行研究と比較して多かった。母親は他者に訪問看護を勧めたい、子どもの健康状態が安定・回復しているなどの項目で点数が高く、訪問看護に満足していたことが示唆された。

(2)小児の訪問看護に対する看護師の知識・技術の不足の認識(学会誌、学会発表)

本研究の目的は、訪問看護師を対象に小児の訪問看護に対する知識や技術の不足の認識を明らかにすることである。小児の訪問看護の経験のない訪問看護師は小児に関連した社会資源と福祉制度の知識やマネジメント技術の修得が必要であり、小児や家族のニーズに対応した調整を行う知識と技術が必要であることが示唆された。

2)在宅療養児に関する基礎的研究

(1)医療的ケアが必要な在宅療養児の母親の技術習得に関する文献検討（学会誌、学会発表）

本研究の目的は、医療的ケアが必要な在宅療養児を養育する母親の医療的ケアの技術や、観察方法の習得と医療職の支援について、研究の現状と今後の課題を検討することである。母親が児の状態把握と判断をすることは困難であり、NICU から在宅への移行期に医療職が介入することは、重要であることが示唆された。

(2)在宅療養児の母親が医療的ケアの技術を実践するプロセス（学会誌、学会発表）

本研究の目的は、医療的ケアが必要な子どもの母親が在宅で医療的ケアを実践するプロセスを明らかにすることである。『ケアの根拠への気づき』『分析的思考の取得』『察知可能になる』の3つのカテゴリーを生成した。母親が、医療的ケアを実践するプロセスは、段階的に変化していた。看護師は、段階に応じた看護師の支援が必要であることが示唆された。

(3)在宅療養児の母親が子育ての喜びを感じるまでのプロセス（学会誌、学会発表）

本研究の目的は、在宅療養児の母親が子育ての喜びを感じるまでのプロセスを明らかにし、母親や家族への支援を検討することである。『子どもの状況に混乱』『子育てへの戸惑い』『子どもの成長発達を実感』の3つのカテゴリーが抽出された。母親が『子どもの状況に混乱』している時期は、家族の情緒的サポートが大切であり、看護師は親子の関係を促進するような働きかけが必要であることが示唆された。

(4)在宅療養児の父親が医療的ケアの技術を獲得するプロセス（学会誌、学会発表）

本研究の目的は医療的ケアが必要な在宅療養児の父親が子どものケアや体調管理の技術を獲得するプロセスを明らかにすることである。カテゴリーは『ケアにチャレンジ』『分析的思考の取得』『ケア・判断の自立』を抽出した。時を経てもケアの中心は母親であり、父親の場合は症状の推測はするが、予測はできていなかった。

3)訪問看護師研修会のプログラム開発と実施及び評価

(1)医療的ケアが必要な在宅療養児の訪問看護師研修会に小児診療看護師（NP）が介入する取り組み（学会発表）

本研究の目的は、A県における在宅療養児の訪問看護の普及と質の向上を目指して小児診療看護師（NP）が介入するプログラムを開発し、研修会の効果をプログラムの有効性、小児診療看護師の講義の意義、今後の訪問看護師の活動への応用について評価することである。プログラムは1日3コマ合計7日間のコースを2回実施し、実施後の調査を行った。研修実施前後を比較するとすべての項目で中央値が実施前より、高得点となり、有意差が見られた。また、自由記述では小児特定看護師の講義は「エビデンスに基づいていた。」などの意見が見られた。研修会の効果はあったと考えられるが、参加者の44%が小児の訪問看護の未経験者であったため、継続的なサポートが必要であることが示唆された。

(2)重症児看護の研修会を受講後の訪問看護師の看護実践（学会発表）

本研究の目的は、重症児看護の研修会を受講後の訪問看護師が看護実践を行うプロセスを明らかにすることである。分析の結果、『研修受講前の困難』『研修の活用』『重症児の訪問看護を納得』のカテゴリーに分類された。研修受講後の訪問看護師は、訪問看護師の役割は在宅療養の保証という考えに至っていた。しかし、緊急時の判断が困難であり、社会資源の活用が苦手であるため、更に学びが必要であると感じていた。

(3)大分県内における小児の訪問看護の実施状況の実態調査（学会発表）

本研究の目的は、A 県内の小児の訪問看護の実施率、実施地域と訪問看護ステーションの実施状況を調査し、今後の課題を検討することである。小児の訪問看護を実施していない施設は、45カ所(73.8%)であった。実施していない理由としては、患者からの依頼がない25人(41.0%)であった。今回の調査では、全県で実施されており、小児の訪問看護を実施する地域の拡大がなされたと考える。訪問看護ステーションで行っている看護については、社会資源の活用や関係機関との連携が今後の課題であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

草野淳子, 高野政子, 下迫絵梨, 足立綾. 大分県内における在宅療養児の訪問看護の実態と課題. 看護科学研究, 13(1), 76-83, 2015.

草野淳子. 医療的ケアが必要な在宅療養児の母親の技術習得に関する文献検討. 母性衛生, 57(2), 447-456, 2016.

草野淳子, 高野政子. 在宅療養児の母親が医療的ケアを実践するプロセス. 日本小児看護学会誌, 25(2), 24-30.

草野淳子. 在宅療養児の母親が子育ての喜びを感じるまでのプロセス. 母性衛生, 57(4), 728-725, 2017.

草野淳子, 高野政子. 在宅療養児への訪問看護師の介入に対する母親の意識と満足の実態. 日本小児看護学会誌, 27, 91-96, 2018.

草野淳子, 高野政子, 田ノ上辰吾. A 県の訪問看護師が小児の訪問看護の経験の有無や経験年数の違いにより不足していると認識している知識・技術. 日本小児看護学会誌, 29, 2020.

Junko Kusano, Masako Takano, Aya Adachi. Process in which fathers of home-cared children acquire medical care nursing technique. Journal of Nursing & Care, 8(4), 2019.

草野淳子, 高野政子, 水元恵理. 在宅療養児(者)と家族に訪問看護師が行う医療的ケアの支援の内容に関する文献検討. 小児保健研究, 79(5), 2020.

[学会発表] (計 17 件)

草野淳子, 高野政子. 医療的ケアが必要な子どもの母親の技術習得に関する研究. 日本小児看護学会第 26 回学術集会論文集, 千葉県, 2015 年 8 月.

草野淳子, 高野政子. 在宅療養児への訪問看護師の介入に対する母親の認識. 日本看護研究学会第 42 回学術集会, 茨城県, 2016 年 8 月.

草野淳子. 医療的ケアが必要な在宅療養児の母親の技術習得に関する文献検討. 第 57 回日本母性衛生学会学術集会, 東京都, 2016 年 10 月.

草野淳子, 高野政子. 小児の訪問看護に対する看護師の知識・技術の不足の認識. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京都, 2016 年 12 月.

草野淳子, 高野政子. 在宅療養児者と家族に対する訪問看護師が行う医療的ケアの支援の現状. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 大阪府, 2017 年 6 月.

草野淳子. 在宅療養児の母親が子どもの成長発達を実感するまでのプロセス. 第 58 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 兵庫県, 2017 年 9 月.

草野淳子 . NICU に入院した子どもの母親の愛着形成のプロセスと看護介入に関する国内文献レビュー . 第 58 回日本母性衛生学会総会・学術集会 . 兵庫県 , 2017 年 9 月 .

草野淳子 , 高野政子 , 足立綾 . 小児NPを講師とした在宅療養児訪問看護師研修会の実施後の評価 . 第65回日本小児保健協会学術集会 , 島根県 , 2018年6月 .

草野淳子 , 高野政子 , 足立綾 . 医療的ケアが必要な在宅療養児の訪問看護師研修会に小児診療看護師 (NP) が介入する取り組み . 日本小児看護学会第 28 回学術集会 , 愛知県 , 2018 年 7 月 .

草野淳子 , 小野美喜 , 福田広美 , 甲斐博美 , 森加苗愛 , 宮内信治 , 高野政子 , 濱中良治 , 藤内美保 , 村嶋幸代 . 修士課程 NP コース教育モデルにおける E ラーニングシステム導入の試み . 日本 NP 学会第 4 回学術集会 , 宮城県 , 2018 年 11 月 .

草野淳子 , 高野政子 . 医療的ケアが必要な在宅療養児の父親が家庭内での役割を獲得するプロセス . 第 66 回日本小児保健協会学術集会 , 東京都 , 2019 年 6 月 .

草野淳子 , 高野政子 . 在宅療養児の父親が医療的ケアの技術を獲得するプロセス . 日本小児看護学会第 29 回学術集会 , 北海道 , 2019 年 8 月 .

草野淳子 , 安部真紀 , 梅野貴恵 . NICU 入院児の家族が看護職が行っている看護と困難の実態-自由記述から . 第 60 回日本母性衛生学会 , 2019 年 10 月 .

安部真紀 , 草野淳子 , 梅野貴恵 . NICU 入院児の家族へ看護職が行っている看護の実態-質問紙調査から - . 第 60 回日本母性衛生学会 , 2019 年 10 月 .

高野政子 , 草野淳子 , 足立綾 . 病院における小児領域の特定行為と特定看護師に関する看護管理者の認識 . 日本小児看護学会第 29 回学術集会 , 2019 年 8 月 .

草野淳子 , 高野政子 . A 県内における小児の訪問看護の実施状況の実態調査 . 第 40 回日本看護科学学会学術集会 , 東京都(オンライン) , 2020 年 12 月 .

草野淳子 , 高野政子 , 足立綾 . 重症児看護の研修会実施後の訪問看護師の看護実践 . 日本小児看護学会第 31 回学術集会 , 埼玉県(オンライン) , 2021 年 6 月 .

6.研究組織

(1)研究代表者

草野淳子(KUSANO Junko)

大分県立看護科学大学 看護学部 准教授

研究者番号 70634111

(2)分担研究者

高野政子(TAKANNO Masako)

大分県立看護科学大学 看護学部 教授

研究者番号 30316195

足立 綾(ADACHI Aya)

大分県立看護科学大学 看護学部 助教

研究者番号 70550929

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 草野淳子, 高野政子, 田ノ上辰吾	4. 巻 29
2. 論文標題 A県の訪問看護師が小児の訪問看護の経験の有無や経験年数と違いにより不足していると認識している知識・技術	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本小児看護学会誌	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20625/jschn.29_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Junko Kusano, Masako Takano, Aya Adachi	4. 巻 8(4)
2. 論文標題 Process in which Fathers of Home-Cared Children Acquire Medical Care Nursing Technique	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Nursing & Care	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 草野淳子, 高野政子	4. 巻 27
2. 論文標題 在宅療養児への訪問看護師の介入に対する母親の意識と満足の実態	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本小児看護学会誌	6. 最初と最後の頁 91-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20625/jschn.27_91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 草野淳子	4. 巻 57(4)
2. 論文標題 在宅療養児の母親が子育ての喜びを感じるプロセス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 728-725
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 草野淳子、高野政子	4. 巻 2(2)
2. 論文標題 在宅療養児の母親が医療的ケアを実践するプロセス	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本小児看護学会誌	6. 最初と最後の頁 24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 草野淳子	4. 巻 57(2)
2. 論文標題 医療的ケアが必要な在宅療養児の母親の技術習得に関する文献検討	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 足立綾, 高野政子, 草野淳子.	4. 巻 29
2. 論文標題 慢性疾患がある子どもの予防接種に携わる外来看護師の支援の実態.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本小児看護学会誌	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20625/jschn.29_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 草野淳子, 高野政子, 水元恵理.	4. 巻 79(5)
2. 論文標題 在宅療養児(者)と家族に訪問看護師が行う医療的ケアの支援の内容に関する文献検討.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 502-509
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 草野淳子, 安部真紀, 梅野貴恵
2. 発表標題 NICU入院児の家族へ看護職が行っている看護と困難の実態－自由記述から－
3. 学会等名 第60回日本母性衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安部真紀, 草野淳子, 梅野貴恵
2. 発表標題 NICU入院児の家族へ看護職が行っている看護の実態－質問紙調査から－
3. 学会等名 第60回日本母性衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高野政子, 草野淳子, 足立綾
2. 発表標題 病院における小児領域の特定行為と特定看護師に関する看護管理者の認識
3. 学会等名 日本小児看護学会第29回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 草野淳子, 高野政子
2. 発表標題 在宅療養児の父親が医療的ケアの技術を獲得するプロセス
3. 学会等名 日本小児看護学会第29回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 草野淳子, 高野政子
2. 発表標題 医療的ケアが必要な在宅療養児の父親が家庭内での役割を獲得するプロセス
3. 学会等名 第66回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 草野淳子, 高野政子
2. 発表標題 重症心身障害児(者)施設における看護管理者の特定行為に関する認識
3. 学会等名 第44回日本重症心身障害学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 草野淳子, 高野政子, 足立綾
2. 発表標題 医療的ケアが必要な在宅療養児の訪問看護師研修会に小児診療看護師(NP)が介入する取り組み
3. 学会等名 日本小児看護学会第28回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 草野淳子, 高野政子, 足立綾
2. 発表標題 小児NPを講師とした在宅療養児訪問看護師研修会の実施後の評価
3. 学会等名 第65回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 草野淳子, 小野美喜, 福田広美, 甲斐博美, 森加苗愛, 宮内信治, 高野政子, 濱中良治, 藤内美保, 村嶋幸代
2. 発表標題 修士課程NPコース教育モデルにおけるEラーニングシステム導入の試み
3. 学会等名 日本NP学会第4回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 草野淳子
2. 発表標題 在宅療養児の母親が子どもの成長発達を実感するまでのプロセス
3. 学会等名 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会, 兵庫県
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 草野淳子
2. 発表標題 NICUに入院した子どもの母親の愛着形成のプロセスと看護介入に関する国内文献レビュー
3. 学会等名 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会, 兵庫県
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 草野淳子, 高野政子, 足立綾
2. 発表標題 乳幼児期の在宅療養児の母親が医療的ケアの技術を獲得するプロセス
3. 学会等名 大分県小児保健学会, 大分県
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 草野淳子, 高野政子
2. 発表標題 在宅療養児者と家族に対する訪問看護師が行う医療的ケアの支援の現状
3. 学会等名 第64回日本小児保健協会学術集会, 大阪府
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 草野淳子, 高野政子
2. 発表標題 小児の訪問看護に対する看護師の知識・技術の不足
3. 学会等名 第36回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 草野淳子
2. 発表標題 医療的ケアが必要な在宅療養児の母親の技術習得に関する文献検討
3. 学会等名 第57回日本母性衛生学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 草野淳子, 高野政子
2. 発表標題 在宅療養児への訪問看護師の介入に対する母親の認識
3. 学会等名 日本看護研究学会第42回学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 草野淳子 高野政子
2. 発表標題 在宅療養児の母親の技術習得に関する研究
3. 学会等名 日本小児看護学会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高野 政子 (Takano Masako) (30316195)	大分県立看護科学大学・看護学部・教授 (27501)	
研究分担者	足立 綾 (薬師寺綾) (Adachi Aya) (70550929)	大分県立看護科学大学・看護学部・助教 (27501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	黒木 雪江 (Kuroki Yukie)	大分県立病院・小児診療看護師	
研究協力者	菅谷 愛美 (Sugaya Manami)	独立行政法人国立病院機構別府医療センター・小児診療看護師	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	後藤 愛 (Gotoh Ai)	社会福祉法人別府発達医療センター・小児診療看護師	
研究協力者	福永 拙 (Fukunaga Tutana)	社会福祉法人別府発達医療センター・理事長兼施設長	
研究協力者	佐藤 圭右 (Satoh Keisuke)	医師	
研究協力者	佐々木 真理子 (Sasaki Mariko)	けいわ訪問看護ステーション大分・在宅部門統括部長	
研究協力者	佐藤 弥生 (Satoh Yayoi)	けいわ訪問看護ステーション大分・訪問看護認定看護師	
研究協力者	武田 真樹 (Takeda Masaki)	社会福祉法人別府発達医療センター・理学療法士	
研究協力者	山口 美香 (Yamaguchi Mika)	社会福祉法人別府発達医療センター・作業療法士	
研究協力者	桜井 明日香 (Sakurai Asuka)	社会福祉法人別府発達医療センター・言語聴覚士	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	齋藤 恵里佳 (Saitoh Erika)	社会福祉法人別府発達医療センター・社会福祉士	
研究協力者	牧 知恵納 (Maki Chieno)	大分県歯科衛生士会・歯科衛生士	
研究協力者	福本 龍二 (Fukumoto Ryuji)	株式会社メディック呼吸センター	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関